報告　書評・芸術評

成田奈緒子氏著「発達障害」と間違われる子どもたち

徳田　良英

リハビリテーション・エンジニアリング 編集委員会
帝京平成大学 健康メディカル学部

「発達障害」と間違われる子どもたち
成田 奈緒子　著
青春出版社
ISBN978-4-413-04665-7
C0295　¥1050E

本書は、脳科学の研究をしながら小児科医として永年、発達障害やそれを疑われるお子さんの診療や相談業務にたずさわってきた成田奈緒子氏の著書です。本書の表紙カバーには、『13 年で約 10 倍に急増！増えたのは本当に「発達障害」なのか』という投げかけは、「実態はちょっと違うのでは？」という著者の執筆の動機や本書の趣旨を暗示しています。この「実態はちょっと違うのでは？」という感覚は、この本を今まさに紹介している私自身が日頃から感じる思いと親和性があり、一度読んでみたくなり手に取りました。

言動に発達障害と同様の症候があるように見え、まわりから発達障害を疑われるが、実は発達障害ではない、というケース（本書では「発達障害もどき」と表記）が少なからず存在するというのが、著者の着眼点です。この見立てをご自身の臨床経験や様々な活動、文献などから多角的に考察し、平易なわかりやすい言葉で、読者に語り掛けるように書かれています。

子育ての悩みを相談できずに悩んでいる方、苦しんでいる方は多数おられると思います。私自身は最近ようやく子育て期を終えましたが、今思えば、うまくいかなかったこと、こうしておけばよかったと思うことがたくさんあります。今子育て真最中の多くの方は、日々の暮らしに追われ、心身ともにゆとりがない方も多いと思います。今を生き抜くには仕方がないことなのかもしれませんが。

著者考案の「発達障害もどきから抜け出す方法」は、子育て全般にも共通するであろう、「なるほど」と思える説明が多数あり、一読の価値あり、と思います。昔から「早起きは三文の徳」といわれますが、この効用は侮れないな、と改めて思いました。この本にもう少し前に出会っていれば、私自身の子育ての仕方もいくらか変わったかもしれません。

本書は、一般向けの本であることから、「発達障害」という語について誤解が生じないように、細心の注意を払っているように思いました。

子育てに悩んでいる親御さん、教育関係者、学校や保育園・幼稚園の先生方に役立つと思います。

リハビリテーション・エンジニアリング 編集委員会
帝京平成大学 健康メディカル学部